
とある覚悟の魔術結社(マジックキャバル)

赤川島起

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある覚悟の魔術結社マジックキャバル

【ZPDF】

Z3335BA

【作者名】

赤川島起

【あらすじ】

某月某日。上条当麻達は平和な日々を過ぐしていた。

そんな中、幻想殺し（イマジンブレイカー）を狙つたある組織が表舞台へと出てきた。

平和な日常から、上条当麻はまたもや戦いの渦に巻き込まれる。彼らの目的は一体……。

科学と魔術が交わるとき、物語は始まる。

プロローグ 組織はゆづくと動を止め stand-up – silent

8月末 某日 英国

二人の男は向かい合っていた、真剣で重々しくて覚悟を決めた表情で。

「本当にいいのか？」

「構わない。」

その言葉は、迫力が……覚悟があった。そしてなおかつ、強い言葉だった。

「お前が言うならいいが、責任は取らないぞ。」

「ああ、覚悟の上だ。だが嫌な役をやらせたな。」

「いいさ、目的を果たすためなら。……じゃあ、いくぞ。」

言葉の後一拍置き、覚悟を決めた男に触れる。

そして、触れられた男が光りだす。

光っている男は苦しんでいた。光そのものが苦しめているよう。光を与えた男は、吹き飛ばされる。その光が、まるで暴風のようだ。

「……ぐはあ。つか……はあ……はあ……。」
男は吐血、いや、喀血していた。あまり大丈夫とは言えない出血量だ。

……だが、男の表情には、……笑みが浮かんでいた。

「くつ……、言わんこいつちやない……と言いたいところだが……、成功だ。しかし、……すさまじいな。」

「……いや、お前もよくやつてくれたな。短い期間で、もう魔術を使いこなしている。科学者だというのに。」

この男たち、世界の禁忌タブーをさらりと言い放っていた。互いの魔術科学サイドはお互たがいの領分を侵さない決まりだというのに。それを超えた男は言う。

「まあ、科学者独特の知識欲といつものかな。……と、そろそろ帰るよ。」

「もうそんな時間か、ゆっくりできねえな、お前は。」

「個人的な友人に会うだけだからな仕事をずっと休めはしないよ。」

「じゃあな、気をつけて行けよ。」

その言葉は、重い口調だ。あたかも、この時間が密会のようだ。学園都市の飛行機は別格だよ。ちいとばかし速すぎるけどね。そして、男たちはそれぞれの世界に帰る。決して交わることのない二つの世界へ。

そして、物語は始まる。科学と魔術が交わった物語が。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3335ba/>

とある覚悟の魔術結社(マジックキャバル)

2012年1月8日21時51分発行